

上田市文化財調査報告書第45集

日 影 遺 跡
田 中 遺 跡

平成2年度団体営土地改良総合整備事業下室賀地区施工に伴う
日影遺跡ほか発掘調査概要報告書

1992.3

上田市教育委員会
川西地区土地改良区

上田市文化財調査報告書第45集

日 影 遺 跡
田 中 遺 跡

平成2年度団体営土地改良総合整備事業下室賀地区施工に伴う
H影遺跡ほか発掘調査概要報告書

1992.3

上田市教育委員会
川西地区土地改良区

序

室賀地区は上田市の西部、通称川西地区の北西部に、室賀川によって形成された扇状地にあります。この地区は上田市でもっとも古い、約7,000年前の縄文時代早期の茅山式土器を出土した谷鬼(やぎ)遺跡の所在するところとして注目を集めていました。しかし、本格的な遺跡の調査は、1974年(昭和49年)の神宮寺古墳(上田市指定史跡)の清掃調査のほかになく、考古学的な説明が待たれていました。

平成2年度、この地区でもほ場整備が行われることとなり、初の遺跡発掘調査を実施しました。そして平成3年度遺物整理作業と報告書の作成を行い、ここに御報告する次第です。

調査は秋真っ盛り、室賀の山々の紅葉の燃え盛る10月、日影遺跡の調査に着手し、雪降る12月の終りに田中遺跡の調査を終了しました。結果については本文中で報告しますが、日影遺跡では縄文時代中期後葉の住居址が検出され、一部は床に石を敷きつめた敷石住居が、上田市では3例目に検出され、それと同時に縄文式土器が多く出土しました。一方、田中遺跡では遺物には恵まれなかったものの、おそらくは平安時代末の条里に伴うであろう溝址が数条検出され、室賀谷開拓の掻音が響くようでした。

本調査に際し、ほ場整備実行委員会や下室賀自治会の皆様には、調査が円滑に進捗するよう御尽力いただきました。さらに、調査にあたっていただいた諸先生方・作業員の皆様には、谷に吹き下ろす西風に雪のちらつく厳寒の時期、現場で御苦労頂きました。ここに関係各位に衷心より感謝申し上げます、序といたします。

平成4年3月

上田市教育委員会教育長 内藤 尚

例 言

- 1 本書は長野県上田市大字下室賀字日影、字田中における平成2年度団体営土地改良総合整備事業下室賀地区に伴う、日影遺跡ほか発掘調査報告書である。
 - 2 平成2年度は、上田市教育委員会が赤羽奈を調査団長として、日影遺跡ほか発掘調査団を組織し、平成3年度は、上田市教育委員会が塩入秀敏を調査団長として、上田市遺跡発掘調査団を組織し、調査を一部委託して実施した。なお、事務局は上田市教育委員会社会教育課が担当した。
 - 3 調査は、1990年(平成2年)10月11日から1991年3月25日まで、及び同年8月26日から1992年3月25日までの2ヶ年度にわたって実施した。この間の調査は調査団の指導のもと、主に中沢徳士が担当した。
 - 4 遺構の実測はセクション図を小山倍子が行い、平面図を新日本航業㈱に委託して実施した。
 - 5 遺物の実測・観察は尾見智志・久保田敦子・市村みつ子・田中弥重子が行い、市村・田中がトレスした。なお、一部を小川忠博の撮影写真をもとに実測した。
 - 6 図版の版組は市村・田中が行った。
 - 7 遺構・遺物の写真は中沢が撮影した。また、石器については小川の撮影したものを使用した。
 - 8 遺物の洗浄は現場作業員が、注記・接合・整理は整理作業員が行った。なお、石膏による復元は樋口眞知子が行った。
 - 9 本調査にかかる資料は上田市立信濃園分寺資料館に保管してある。
 - 10 本書の編集発行は事務局が行った。
 - 11 本調査に当たり、次の皆さんに御協力・御助言をいただいた。記して感謝する次第である。森島稔、長野県教育委員会文化課、下室賀地区は場整備実行委員会、下室賀自治会、上田市立清明小学校(順不同・敬称略)
 - 12 平成2年度調査に係る「日影遺跡ほか発掘調査団」の組織は次のとおりである。
- | | |
|-----|-----------------------------------|
| 顧問 | 五十嵐幹雄(日本考古学協会員、上田市文化財保護審議会委員) |
| “ | 岩佐今朝人(日本考古学協会員、上田県誌考古編纂副主任) |
| 団 長 | 赤 羽 奈(平成2年10月10日まで上田市教育委員会教育長) |
| 副団長 | 小 林 陽 二(上田市教育委員会教育次長) |
| 調査員 | 塩 入 秀 敏(日本考古学協会員、上田女子短期大学助教授) |
| “ | 猪 熊 啓 司(上小考古学研究会員、長野県長野高等学校教諭) |
| “ | 川 上 元(日本考古学協会員、社会教育課課長補佐兼文化係長) |
| “ | 倉 沢 正 幸(長野県考古学会員、上田市立信濃園分寺資料館学芸員) |
| 担当者 | 中 沢 徳 士(社会教育課学芸員) |
| 調査員 | 塩 崎 幸 夫(社会教育課主事) |
| “ | 久 保 田 敦 子(社会教育課主事) |

13 平成3年度調査に係る「上田市遺跡発掘調査団」の組織は次のとおりである。

顧問 五十嵐、岩佐（いずれも前出）

団長 塩入 秀敏（日本考古学協会員、上田女子短期大学助教授）

副団長 川上 元（日本考古学協会員、上田市立博物館長）

調査員 猪熊、倉沢、中沢、尾見智志（平成3年4月1日より社会教育課主事）、塩崎、久保田

監事 久保浩美（上田市文化財保護審議会委員、元文化課文化財保護係長）、岩佐

14 本調査に係る事務局の体制は次のとおりである。

事務局長 須藤清彬（社会教育課長）

同次長 川上元（社会教育課文化係長、平成3年3月25日まで）

寺島隆史（社会教育課文化係長、平成3年4月1日から）

事務局員 中沢、塩崎、久保田、小林善保利（平成3年3月25日まで）、尾見智志（平成3年4月1日から）（社会教育課文化係）

15 現場作業（遺物洗浄まで）に参加・協力していただいた方々（順不同、敬称略）

西沢勝、竹内二郎、関茂樹、小山倍子、成沢伯、清水芳敏、野田三男、小山康直、間島亥三郎、宮崎四郎、土屋友春、中村澄子、中村くにみ、五十地市太郎、竹内勇、清水関二、土屋幸保、小山幹雄、山崎市江、池田才治郎、関西男、久保田芳美、久保田悦子、西沢庄吉、荒井隆美、小山泰、藤原延夫

16 整理作業に参加・協力していただいた方々（順不同、敬称略）

荒井かぎ子、小野沢恵美子、唐沢裕子、小林明子、大井敬子、市村みつ子、樋口眞知子、樋口若子、田中弥重子、清水関二、窪田幸子

17 今回の調査により、多くの遺構・遺物が検出された。遺構の完備状況はすべて掲載したが、出土状況等は除いた。また遺物は、遺構に伴う代表的なものを中心に選択して報告した。

凡 例

遺 構

- 1 遺構の略号は、住居址＝SB－、炉址＝FP－、土壌＝SK－、集石＝SX－、ピット＝P
…、溝址＝SD…、住居址のピット＝P、埋甕＝P○ーとし、続く番号は任意で、欠番も生じ
ている。なお、炉址＝FPー及び埋甕＝P○ーについては、住居址内のものについては「住居
址」の項で取り上げ、住居址が判明せず、単独で検出したものについては「炉址」及び「埋甕」
の項で取り上げた。
- 2 遺構の版組は国家座標の北を基準に行ったが、紙面の都合により例外もある。
- 3 遺構実測図は原則として原図1/20もしくは1/10とし、縮尺1/3とした。
- 4 住居址の範囲が明確でない場合は、推測される住居址の範囲を破線で示した。
- 5 遺構の主軸方位は、国家座標の北とのなす角度で示した。
- 6 意向を示す規模の単位は、原則としてmであり、この他はその単位を示した。
- 7 地土は網点のスクリーントーンで示した。
- 8 遺構写真の縮尺は任意である。

遺 物

- 1 遺物実測図は、原図1/1、縮尺1/3を原則としたが、例外はスケールで示した。
- 2 土器の実測方法は、縄文土器については任意、土師器・須恵器については4分割法を用い、
右1/2に断面および内面を、左1/2に外面を記録した。
- 3 黒色処理のある土器は網点のスクリーントーンで示した。
- 4 石器写真は原判1/1、縮尺1/3とした。
- 5 遺物観察表の法量の単位はすべてcmで、3段構成の上から口径（抓径）、器高（残高）、底
径（裾径）を記し、残存していない場合は「－」とした。器質の「胎」は胎土を、「焼」は焼
成を、「色」は色調を表す。また（外）（内）は土器の外面、内面を示す。
なお、色調は遺物の基本的な色調を、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日
本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」1991年を用いて判別した。
- 6 遺物図版番号と遺物写真図版の番号は一致している。
- 7 遺物写真図版の縮尺は任意である。

目 次

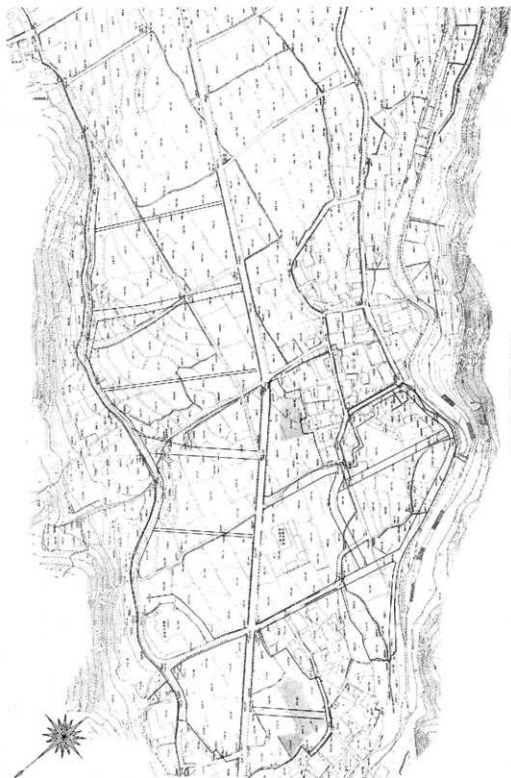
序

例言

凡例

目次

第一章 序説	…… 1	第2節 遺物	…… 23
第1節 調査の原因と経過	…… 1	1 住居址	…… 23
1 調査に至る経過	…… 1	2 埋葬址	…… 29
2 調査の経過	…… 2	3 遺物一覧表	…… 30
第2節 調査の方法	…… 3	4 石器	…… 33
第3節 調査日誌	…… 3	5 石器一覧表	…… 51
第4節 基本的順序	…… 4		
第二章 遺跡の環境	…… 5	第四章 田中遺跡の調査	…… 54
第1節 自然的環境	…… 5	第1節 遺構	…… 54
第2節 歴史的環境	…… 5	第2節 遺物	…… 72
第三章 日影遺跡の調査	…… 9		
第1節 遺構	…… 9	写真図版	…… 75
1 住居址	…… 10		
2 炉址	…… 16		
3 土壌	…… 16		
4 ビット	…… 17		
5 溝址	…… 18		
6 集石	…… 19		
7 遺構一覧表	…… 20		



第1圖 調査の範囲

第一章 序 説

第1節 調査の原因と経過

1 調査に至る経過

平成2年6月、上田市農政部長村整備課担当職員から「平成2年度団体営土地改良総合整備事業下室賀地区」の埋蔵文化財について、上田市教育委員会社会教育課（以下「市教委」という。）に問い合わせがあった。早速担当職員が過去の分布調査の成果と現地を確認したところ、事業地区内には「日影遺跡」が存在していることが判明した。しかし、その範囲については過去の分布調査が遺物の表面採取によるものであったため、改めて試掘による範囲確認調査を行うこととなり、7月5日～6日、ミニバックホーによるトレンチ調査を実施した。その結果、字日影において縄文時代の、田中において平安時代の遺物包含層が、それぞれ確認された。この結果をもとに、上田市、市教委の担当課・担当職員および地元は場整備実行委員会委員の出席により遺跡の保護協議を実施し、下記の計画で調査を実施することとした。

発掘調査計画書

発掘調査地	上田市大字下室賀字日影及び字田中
遺跡名	日影遺跡・田中遺跡
遺跡の状況	地目（水田・畑）破壊状況（一部破壊）
調査の目的及び概要	開発事業団体営土地改良総合整備事業下室賀地区に先立ち、4,000㎡以上を発掘調査して記録保存をはかる。 遺跡における発掘作業は平成2年11月30日までに終了する。 調査報告書は平成4年3月31日までに刊行するものとする。
調査の作業日数	発掘作業60日、整理作業122日、合計182日（平成2年度）
調査に要する費用	16,200,000円
調査報告書作製部数	平成3年度に300部刊行
発掘調査の主体者	上田市教育委員会
経費の負担割合	農政部長側負担額（原因者）12,798,000円（79%） 文化財保護部側負担額（農家負担分）3,402,000円（21%）
備考	調査の結果、重要な遺構等が検出された時は、その保存について改めて協議するよう配慮する。

一方、平成2年10月11日には、この調査に際し市教委が新たに組織した『日影遺跡ほか発掘調査団』の赤羽察調査団長と上田市との委託契約が成立し、同日調査準備に着手した。

2 調査の経過

(1) 平成2年度の経過

本調査に係る平成2年度の契約、補助金の申請事務等は次に示すとおりである。

国庫補助金関係	県費補助金関係	川西土地改良区	発掘調査団
平成2年4月4日 庁保健第7号 補助金の内示	平成2年4月4日 上教社第2号 補助金の内示		
平成2年4月5日付 上教社第118-1号 補助金交付申請	平成2年8月10日付 上教社第173号 補助金交付申請		
平成2年7月24日付 庁保健第71号 補助金交付決定	平成2年10月17日付 長野県教育委員会 補助金交付決定 教育第2-6号		
平成2年10月1日付 上教社第232号 計画変更承認申請	平成2年10月1日付 上教社第232号 計画変更承認申請	平成2年10月4日 委託契約締結(受託)	平成2年10月11日 委託契約締結
平成3年2月26日付 庁保健第71号 補助金変更交付決定	平成3年3月15日付 長野県教育委員会 補助金変更交付決定 教育第6号		
平成3年3月30日付 上教社第84-1号 補助事業実績報告	平成3年3月30日付 上教社第84-1号 補助事業実績報告	平成3年3月30日 事業実績報告(提出)	平成3年3月25日 事業実績報告
平成3年4月10日付 長野県教育委員会 補助金確定	平成3年3月31日付 長野県教育委員会 補助金確定 教育第2-6号		
平成3年4月11日付 上教社第84-1号 補助金交付請求	平成3年4月2日付 上教社第84-1号 補助金交付請求	平成3年3月30日 上教社第84-2号 委託金交付請求	

(2) 平成3年度の経過

平成2年9月7日、平成3年度の遺物整理・報告書刊行に係る遺跡の保護協議を県教委・川西土地改良区・上田市・市教委の担当者により開催し、整理作業125口、事業費4,000,000円(農政部局側負担額3,160,000円=79%、文化財保護部局側負担額840,000円=21%)で、平成3年3月31日までに調査報告書を300部刊行することとした。

平成3年度調査に係る契約、補助金の申請事務等は次に示すとおりである。

国庫補助金関係	県費補助金関係	川西土地改良区	発掘調査団
平成3年9月30日 庁保健第7号 補助金の内示	平成3年11月1日 上教社第2号 補助金の内示		平成3年8月26日 委託契約締結
平成3年10月11日付 上教社第145号 補助金交付申請	平成3年11月20日付 上教社第274号 補助金交付申請	平成3年9月12日 委託契約締結	
平成3年7月24日付 庁保健第71号 補助金交付決定	平成3年10月12日付 長野県教育委員会 補助金交付決定 教育第2-6号		

平成4年3月25日、本報告書を刊行してすべての調査を終了した。

第 2 節 調 査 の 方 法

遺跡名は長野県教育委員会作成の遺跡台帳に記載されている名称「日影遺跡」「田中遺跡」とした。また、記録の便宜を図るため、遺跡記号としてHI-KA-GEのHKG、TA-NA-KAのTNKを組み合わせて与えた。各種の記録や遺物の注記等はこの記号を用いている。両遺跡の調査地区の設定については、予め試掘ビットを掘り、おおよその範囲は把握してしたもの、ビットの密度が極めて粗かったため、本発掘に際しては改めてトレンチ調査を行い、遺跡の性格と土層の把握をし、併せて面的調査の範囲＝調査区の設定を行った。

面的調査については、表土、耕作土の排除はすべてバックホーを用い、その後の作業は人手によった。なお、面的調査に際しては、グリッドを設定し、遺物の取り上げ、遺構測量に利用した。このグリッド杭の設定については、国家座標のメッシュに従い、遺跡周辺の三角点の座標値から調査区両側に引っ張り、この点を基準点として3×3mのグリッドを設定した。

なお、最終的な遺構全体測量、石組遺構等については専門業者に委託して実測を行い、現場作業の迅速化を図っている。

第 3 節 調 査 日 誌

平成 2 年

- 10/11 日影遺跡のバックホーによる表土剥、遺構検出作業着手
- 10/17 日影遺跡のバックホーによる表土剥終了
- 10/22 専門業者による6×6mのグリット杭打ち
- 11/ 5 3×3mのグリット杭打ち
- 11/13 田中遺跡のバックホーによる表土剥開始。戸倉町より森島稔氏来訪、指導を受ける。
- 11/14 専門業者による日影遺跡遺構検出面空測用写真撮影
- 11/16 田中遺跡の遺構検出作業に着手
- 11/17 日影遺跡住居址、炉址等の遺構掘り上げ着手、同時にグリットごとに掘り下げ開始
- 11/19 田中遺跡表土剥終了
- 12/ 3 戸倉町より森島稔氏来訪、指導を受ける。
- 12/ 6 専門業者による日影遺跡空測用写真撮影、発掘器材を田中遺跡に移動
- 12/ 7 日影遺跡遺構掘り上げ、午後現地説明会約60名参加
- 12/10 田中遺跡の溝址、ビットの遺構掘り上げ
- 12/12 午前雨のため中止、午後3名排水作業
- 12/19 現場清掃作業
- 12/20 専門業者による日影遺跡空測用写真撮影、器材を撤収

平成3年

1/7 川西公民館にて土器洗い開始

2/1 埋蔵文化財整理室にて遺物整理作業開始

2/27 土器洗い終了

2/28 平成2年度の作業終了

8/26 平成3年度の作業着手

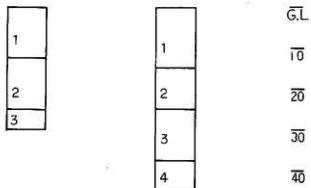
↳ 遺物整理、遺物図化・観察、遺構遺物図トレース、遺物撮影、版組、執筆

平成4年

3/25 報告書刊行

第4節 基本的層序

両遺跡の基本的な土層は第2図に示したとおりである。



1 耕作土

2 溶脱層

3 遺物包含層

4 砂礫層

第二章 環 境

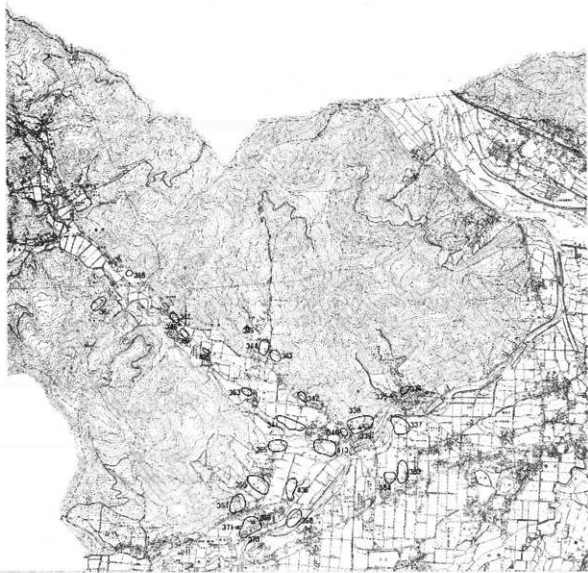
第 1 節 自 然 的 環 境

長野県東部に位置する上田盆地の南西部は、塩田地区と、川西地区に二分される。塩田地区が盆地性で塩田平と呼ばれているのに対して、川西地区は浦野川が形成した谷平野と室賀谷を中心として形成される地区である。浦野川は、上田小県地方では、依田川・神川に次ぐ大河川で、小県郡青木村の大明神岳(1,223a)、二ツ石岳(1,535a)、御蔵山(1,623a)、大沢山(1,440a)、子禮嶺(1,223a)、などを源とする相染川、宮瀧川、滝川、田沢川などを集めながら東北流し、中流域で、阿島川・室賀川が合流し、下流域に至ってさらに産川を合流して上田市下之条で千曲川に注ぐ。上流域の青木村奇掛あたりですでに谷平野を形成し始め、その幅は青木村中心部付近で約400a、上田市浦野で約900a、同吉田で約1,000aをはかる。また河岸段丘もよく発達し、中下流域では2段を認めることができる。

今回は場整備事業に先立って発掘調査された日影・田中の両遺跡は、室賀川が形成した扇状地が小泉の谷平野に向かって広がる上田市大字下室賀に所在し、室賀川と城山(933a)の間に形成された段丘上中央部に位置する。一帯は西から東へ、また北から南へ緩やかな傾斜をなしている。北側に名勝岩鼻から三ツ頭山(922a)に連なる城山の山塊が、また南側には飯縄山(932.8a)が、西側には大林山(1,330a)が屹立し、日照時間は冬至の時期7時間程度となる。両遺跡は、こうした室賀谷の中央に所在し、海拔は500mをはかる。

第 2 節 歴 史 的 環 境

川西地方では人類が足跡を残した最も古い地点として認められるのは、約7000年前の縄文時代早期後葉茅山式期の土器を出土した室賀谷の奥の谷鬼(やぎ)遺跡である。地形などから、より古い時期の遺跡が発見される可能性はあるが、現在の時点ではこれを超える時期の遺跡は確認されていない。縄文時代はその後の全期を通して遺跡が存在するが、中期後半に遺跡数が最も増加する傾向がみられる。後晩期には数的には減少するものの、平成元年に行われた発掘調査により中期後半から後期前半にかけての4軒の敷石住居址や2基の石棺墓などが検出された大道下遺跡があり、また昭和55年の発掘調査の結果、後期後葉加曾利B式期～晩期中葉大洞C₂式期の遺物出土し、上田市内でも数少ない該期遺跡の中で最も優秀な遺物を出土したことで知られている下前沖遺跡がある。



第3図 日影遺跡周辺の歴史地図

番号	遺跡名	時代	所在地	備考
334	旗鉾遺跡	縄文～平安	小泉字旗鉾	
335	鍛冶山古墳	古墳	小泉字鍛冶山	
337	大道下遺跡	縄文～平安	小泉字大道下	平成元年度現地調査
338	和合遺跡	縄文～平安	小泉字和合	
339	將軍塚古墳	古墳	小泉字和合	
340	岳之里遺跡	平安	下室賀字岳之里	
341	岳之鼻遺跡	縄文～平安	下室賀字岳之鼻～池下	平成3年度一部調査
342	岳の本遺跡	平安	下室賀字岳の本	
343	樋之詰遺跡	平安	下室賀字樋之詰	
344	神宮寺遺跡	平安	下室賀字神宮寺	
345	神宮寺古墳	古墳	下室賀字神宮寺	昭和49年度清掃調査
346	長谷塚古墳	古墳	下室賀字長谷塚	湮滅
347	長谷塚遺跡	平安	下室賀字長谷	
348	日向遺跡	平安	下室賀字日向	
361	原遺跡	平安	下室賀字原	
362	日影遺跡	縄文	下室賀字日影	
363	寺前遺跡	縄文～平安	下室賀字寺前	
365	原遺跡	縄文～平安	岡字原	
366	滝遺跡	縄文～平安	岡字滝	
367	古城遺跡	平安	岡字古城	
368	久保遺跡	平安	岡字久保	
369	岡城跡	近世	岡字城	一部上田市指定史跡
370	城遺跡	平安	岡字城	
371	城古墳	古墳	岡字城	
383	高田遺跡	奈良・平安	小泉字高田	平成2年度調査
384	長谷田遺跡	弥生	小泉字長谷田	
413	山崎城跡	近世	岡字山崎	
436	山崎遺跡	平安	岡字山崎	
438	田中遺跡	平安	下室賀字田中	

*遺跡番号は県の登録番号による。

第1表 日影遺跡と周辺遺跡一覧表

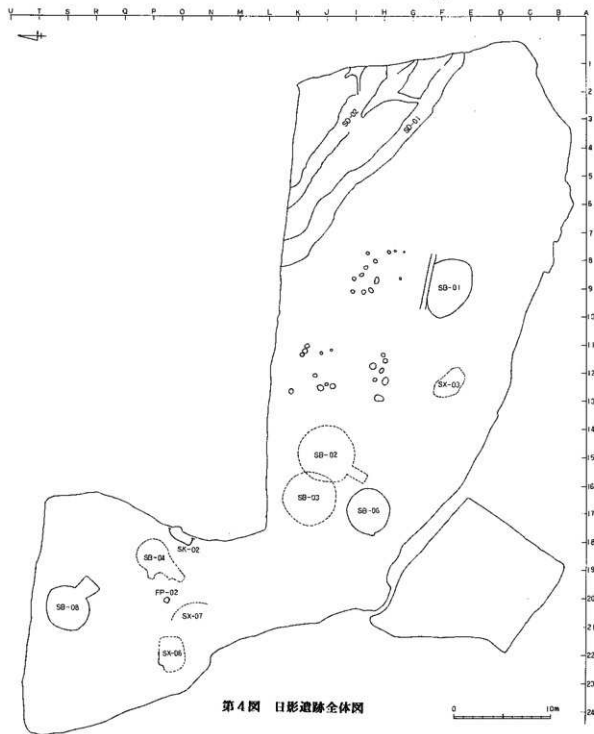
弥生時代の遺跡としては、青木を含め10をわずかに上回る数の遺跡をあげることができるだけで、それも後期後葉箱清水式期の小遺跡が多い。その中において琵琶塚遺跡は昭和61・62年にわたり発掘調査され、23軒の住居址が検出された大遺跡で、この谷平野のみならず上田小泉地方を代表する遺跡となった。また、平成元年に発掘調査された大道下遺跡からも多くの該期住居址が検出され、浦野川の右岸河岸段崖沿いに大きな遺跡が展開する様子が明らかにされた。琵琶塚遺跡からは東海地方西部に中心をもつS字口縁台付甕形土器が出土しており、弥生時代から古墳時代にかけての端境期の遺跡としても重要である。S字口縁台付甕形土器は青木村の岡石遺跡からの出土も知られている。また、琵琶塚遺跡からは近畿地方や北陸地方の影響を受けた土器もかなりの量で出土した。

古墳時代の遺跡は古墳の数に比して意外に分かっていない。湮滅したのも含め10基を数える古墳の内、室賀谷の神宮寺古墳、青木村の塚穴古墳が調査された。ともに両袖式の横穴式石室をもつが、前者は直線的な羽子板型石室を、後者は胴張りの石室を有する。特に後者の副葬品は勾玉・切小玉・ガラス小玉・耳環等の装身具が見事である。また、和合將軍塚古墳は腰塚をもつ壜穴式石室墳と推測され、かつて鉄剣2口が出土したと伝える。日向小泉には日向小泉1～5号墳など6基の円墳が存在し、当地区唯一の群集墳として注目される。さらに、すでに畑化して湮滅してはいたが人物埴輪・円筒埴輪を出土した八幡山古墳がある。これらの古墳は、やや古いと考えられる和合將軍塚古墳は例外として、その他のほとんどは後期後葉～終末期に比定され、6世紀末～7世紀代に築造されたものである。和合將軍塚古墳が壜穴式石室墳としてそのまま認められるならば、6世紀前葉以前にはすでに相当の権力の集中があり、その後は少々分散するものの継続して権力の存在をみることができると考えられる。浦野川谷平野の最も広い地帯を経済基盤に築かれた古墳なので、対応する集落遺跡の解明がまたれる。

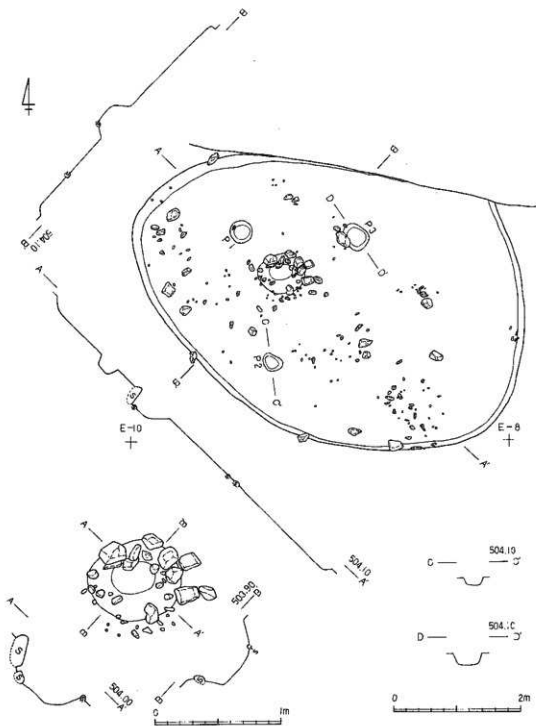
奈良・平安時代に至ると、集落数が急増する。技術の進歩により灌漑用水路の開鑿や水田の開墾が急激に進んだ結果であり、水田化可能な谷平野はおろか、戦後開拓の手が入った室賀谷奥の谷奥の地にも千年前にすでに開拓者が入り込んでいる。8世紀には上田に信濃国府、次いで信濃国分僧寺・同尼寺が置かれ、東山道も保福寺峠越えてこの谷平野を通っており、その通過地点については諸説があるが、最近では谷平野の真ん中を一直線に通ったと言われている。そうすると、高田遺跡は東山道に直接面した集落であったとも考えられる。また、信濃16の勅旨牧の一つ塩原牧も近くあり、牧に関する数多くの地名等はその事実を如実に物語る。『日本霊異記』に登場する「跡目郷」の「他田舎人蝦夷」は、信濃国造氏につながるものと思われるが、塚穴古墳や塩原牧とも何らかの関係があったとも考えられるという。川西地区は『和合類聚抄』の小泉八郷の内「福田郷」であり、一部分「跡部郷」にも含まれると思われるが、今ならば超一級国道ともいべき東山道沿いで中央の文物も入りやすく、当時としては開けた土地だったろう。古代末に比定される小泉条里的遺構は、この室賀谷まで展開し、今に残るその名残の一つであると言える。

第三章 日影遺跡の調査

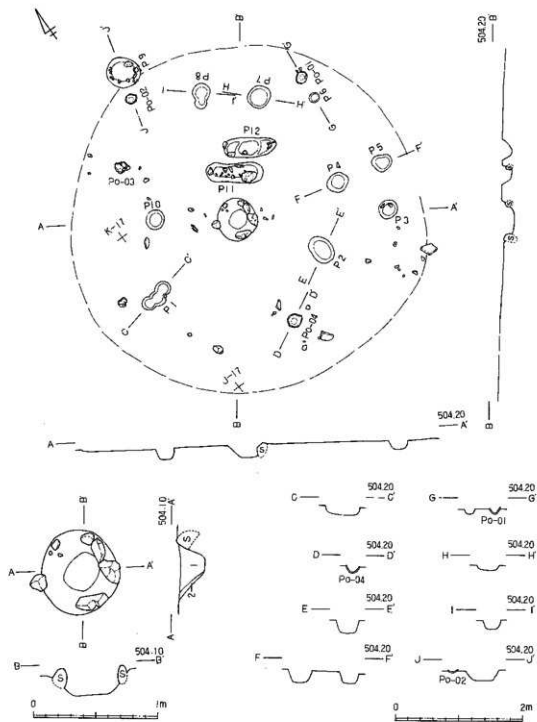
第1節 遺 構



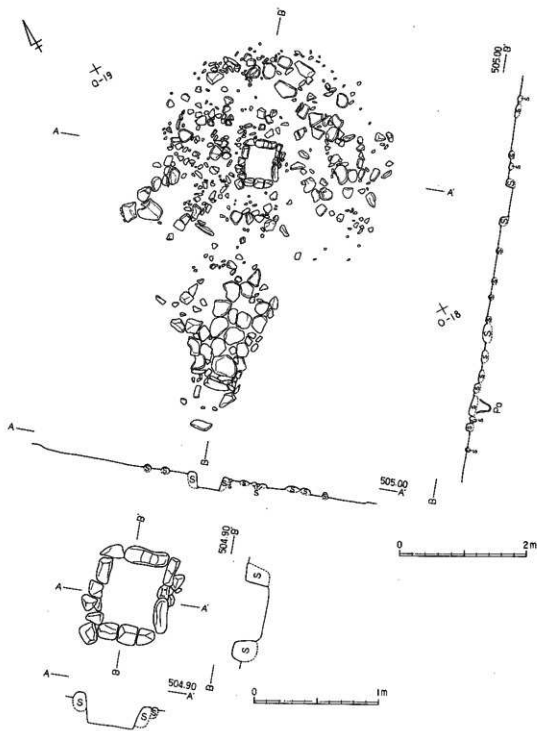
第4図 日影遺跡全体図



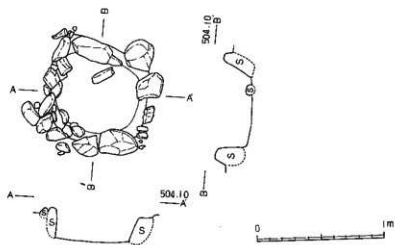
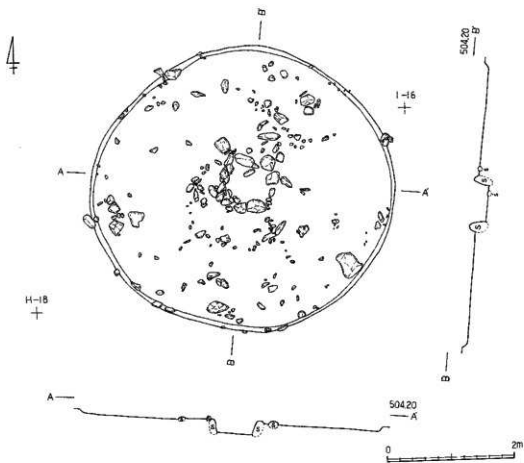
第6图 SB-02、FP-01实测图



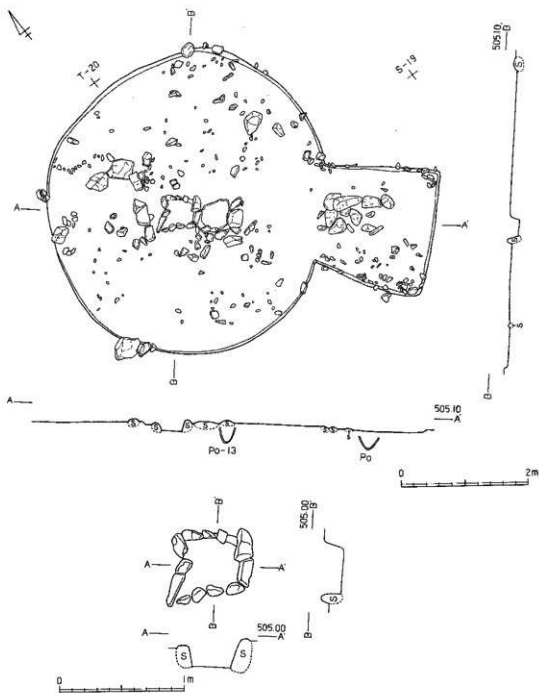
第7图 SB-03、FP-03实测图



第8图 SB-04、FP-07实测图

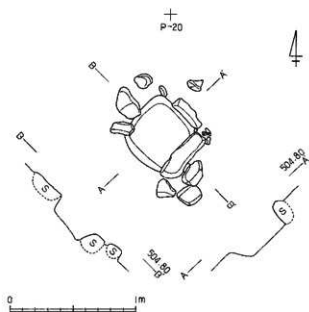


第9圖 SB-06、FP-05実測図



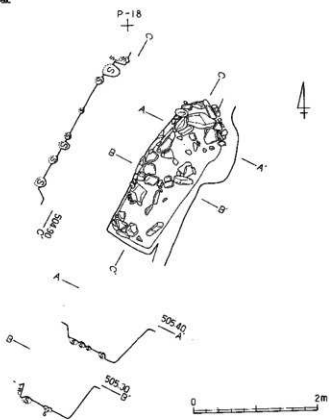
第10图 SB-08、FP-09实例图

2 炉址



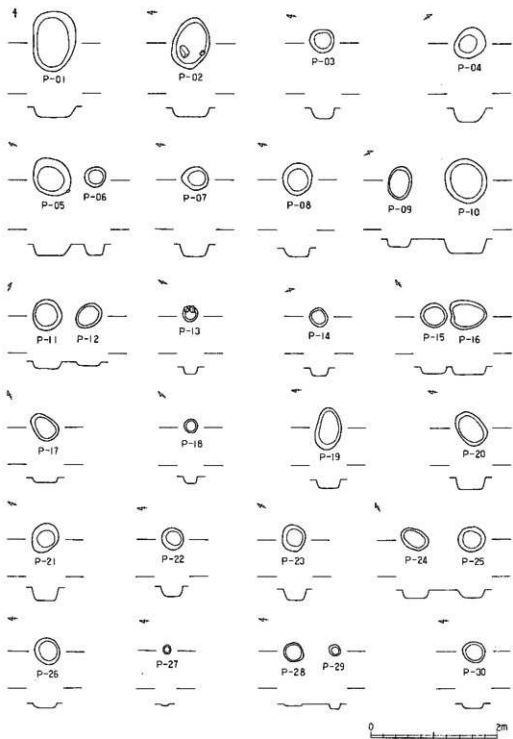
第11图 FP-02实测图

3 土筑址



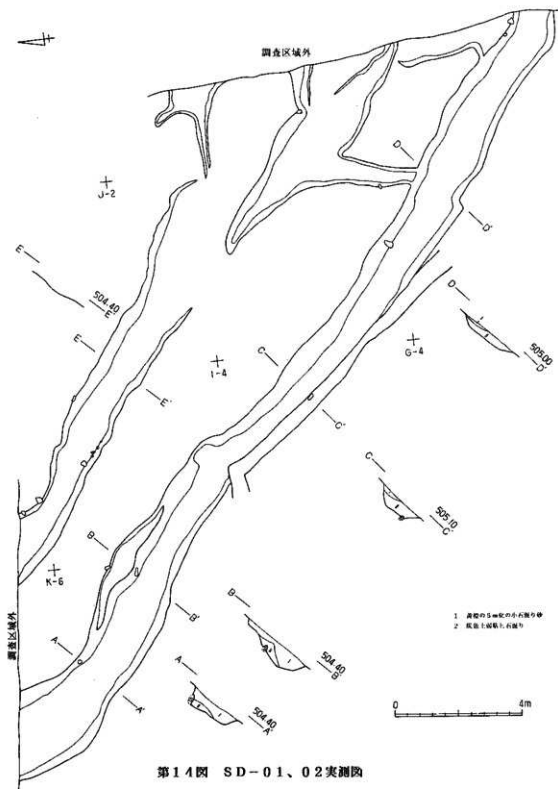
第12图 SK-02实测图

4 ビット



第13図 ビット実測図

5 溝址



- 1 溝壁の5m位の小石散り砂
- 2 概掘土層粘土石層等

第14図 SD-01、02実測図



SX-03



SX-06



SX-07



第15图 SX実測図

7 遺構一覽表

遺構番号 遺構位置	位置 (グリッド 座標)	築 成 年 代	構造 形式	覆土層	柱・貯蔵穴 (長径×短径×深さ)	炉 位置・主 軸方向
S B - 0 1 第 5 遺 構 1 6	E-7, 8, 9 F-7, 8, 9 F-11 N-72.5-#	6.21×7 (S)0.14~(S)0.11 503.30~503.88	1.黒褐色土	P1 (0.36×0.33×0.20) P2 (0.45×0.38×0.20)	F P - 1.0・0.75×0.73 中央・N-47-#	
S B - 0 2 第 6 遺 構 1 7, 18	I-13, 14, 15 J-13, 14, 15 K-22.5-#	7.89×5.95 504.34~504.02	1.黒褐色土	P1 (0.67×0.51×0.10) P2 (0.43×0.36×0.15)	F P - 0.1・0.82×0.73 中央・N-10.5-#	
S B - 0 3 第 7 遺 構 1 9	I-16 J-15, 16, 17 K-15, 16 L-16 N-60.0-#	5.85×5.55 504.00~504.06	1.黒褐色土	P1 (0.55×0.24×0.14) P2 (0.49×0.36×0.21) P3 (0.32×0.23×0.13) P4 (0.37×0.30×0.21) P5 (0.17×0.18×0.06) P6 (0.35×0.28×0.16) P7 (0.51×0.33×0.19) P8 (0.35×0.28×0.16) P9 (0.51×0.33×0.19) P10 (0.35×0.28×0.16) P11 (0.68×0.34×0.21) P12 (0.32×0.33×0.15)	F P - 0.3・0.68×0.63 中央・N-60.0-# 1.黒褐色砂粘土 2.明褐色砂粘土	
S B - 0 4 第 8 遺 構 2 0	0-17, 18, 19 F-17, 18, 19 F-20 N-53.0-#	6.20×4.20 504.50~504.72	1.黒褐色土		F P - 0.7・0.79×0.68 中央・N-40.0-#	
S B - 0 6 第 9 遺 構 2 1	G-15, 17 H-16, 17 I-15, 17 J-15, 17 K-53.5-#	7.47×4.42 (S)0.08~(S)0.06 503.90~503.96	1.黒褐色土		F P - 0.5・0.92×0.92 中央・N-60.5-#	
S B - 0 8 第 1 0 遺 構 2 2	F-13, 20 S-19, 20 F-20 N-43.0-#	6.11×4.84 (S)0.08~ 504.30~504.90	1.黒褐色土		F P - 0.9・0.60×0.62 中央・N-40.0-#	
F P - 0 2 第 1 1 遺 構	住居址の主軸が、S B - 0 2、S B - 0 4とは90°近くずれる。強出し層と貯蔵庫間に埋蔵を置く。炉は石囲炉で、北側の炉壁石を欠く。					

第 2 表 遺構一覽表 (1)

遺構番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	位置(グリッド)
2号土坑	262.0	118.0	77.0	0-17.18

土坑一覧表

集石番号	長径(cm)	短径(cm)	位置(グリッド)
3号集石	380.0	200.0	D-12, E-12.13
6号集石	320.0	240.0	0-21.22
7号集石	350.0	200.0	N-20, 0-20

集石一覧表

第3表 遺構一覧表(2)

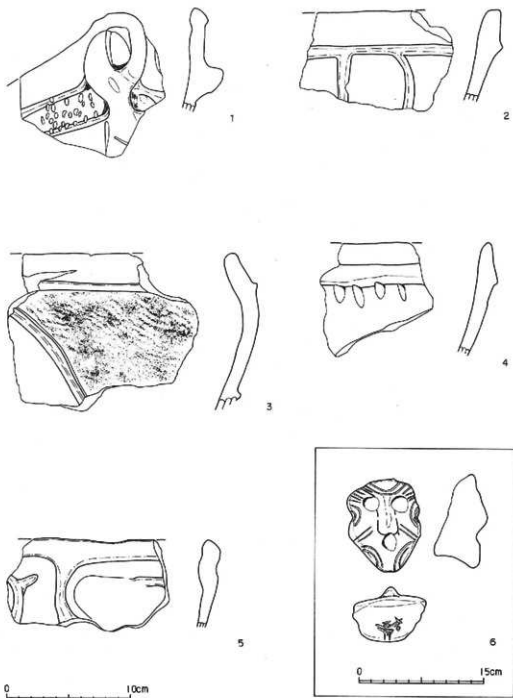
番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
1	98.0	68.0	18.0	2	84.0	58.0	16.0
3	40.0	38.0	18.0	4	54.0	44.0	22.0
5	68.0	58.0	18.0	6	34.0	32.0	18.0
7	44.0	38.0	20.0	8	52.0	46.0	14.0
9	54.0	38.0	22.0	10	72.0	64.0	24.0
11	52.0	46.0	12.0	12	46.0	36.0	6.0
13	26.0	24.0	12.0	14	30.0	26.0	14.0
15	42.0	38.0	12.0	16	60.0	46.0	14.0
17	50.0	36.0	8.0	18	22.0	22.0	12.0
19	68.0	42.0	14.0	20	58.0	40.0	20.0
21	50.0	40.0	20.0	22	36.0	34.0	16.0
23	44.0	36.0	18.0	24	46.0	32.0	12.0
25	44.0	40.0	12.0	26	44.0	38.0	8.0
27	16.0	12.0	4.0	28	34.0	30.0	4.0
29	20.0	18.0	8.0	30	38.0	34.0	8.0

ビット一覧表

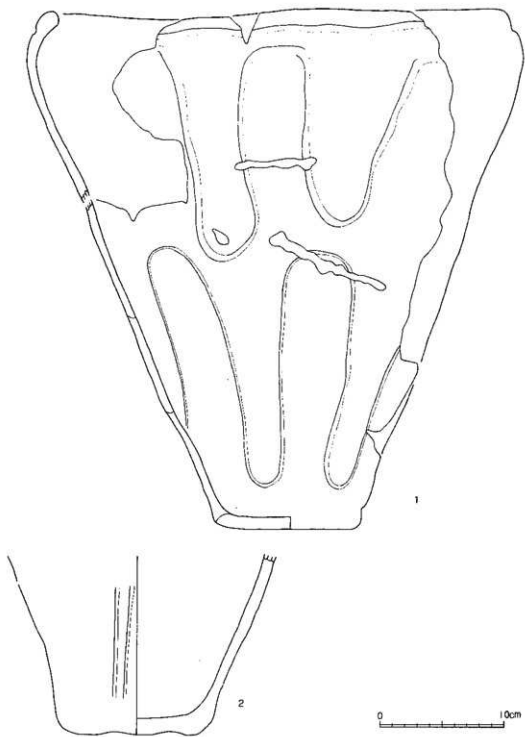
第4表 遺構一覧表(3)

第 2 節 遺 物

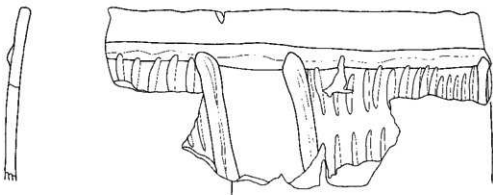
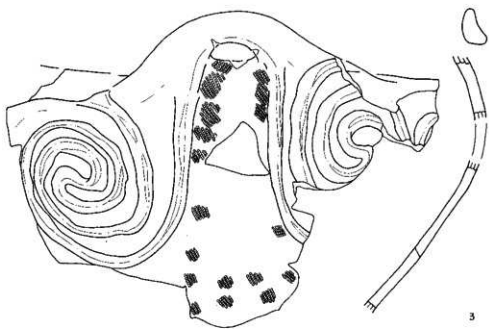
1 住居址



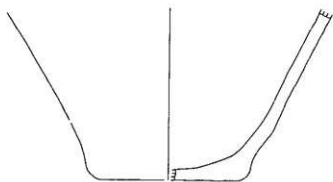
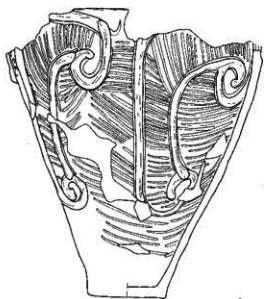
第 16 图 SB-01 出土遺物実測图



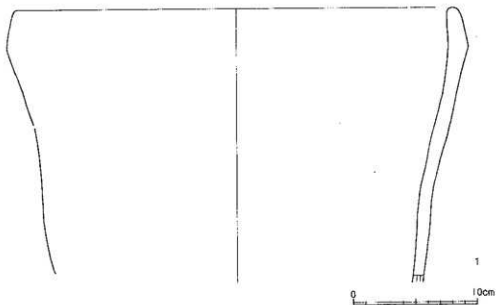
第17图 SB-02出土遗物实测图(1)



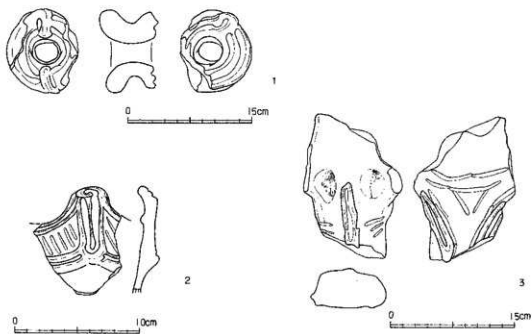
第 18 图 SB-02 出土遗物实测图 (2)



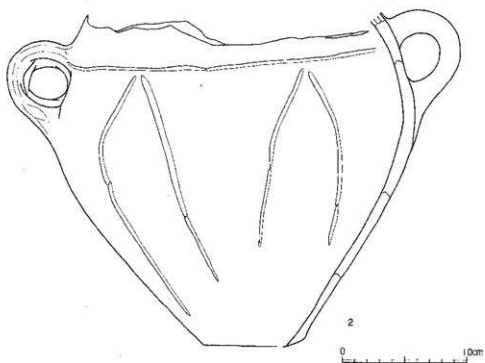
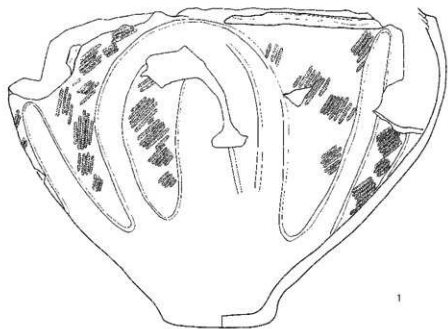
第19图 SB-03出土物实测图



第20图 SB-04出土遺物実測図

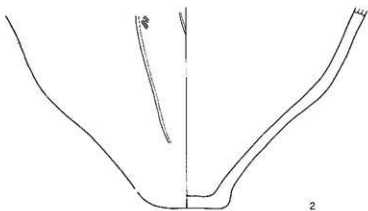


第21图 SB-06出土遺物実測図



第22图 SB-08出土器物实测图

2 埋藏址



第23图 P○出土物实测图

3 遺物一覧表

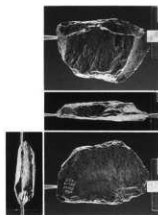
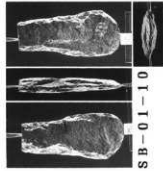
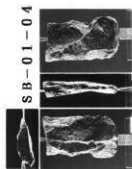
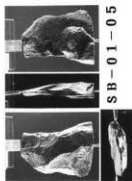
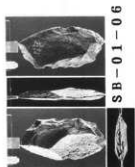
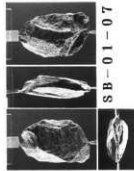
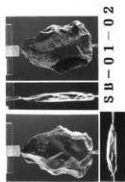
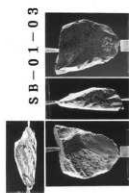
遺構NO 図版NO	器種 種類	法量	器	質	文様・形態ほか	備考
第1号住居址 第16図-1	深鉢 縄文	口径 残高 9.5 底径 口縁部	胎: 雲母、礫を含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR6/6橙 (A) 7.5YR6/3にぶい褐		波状口縁の頂部。耳状の突起がつく。口縁部はやや内湾する。口縁に沿った形状の無文帯には刺突文が施される。	
第1号住居址 第16図-2	深鉢 縄文	口径 残高 8.0 底径 口縁部	胎: 雲母、礫を含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR6/6橙 (A) 7.5YR7/3にぶい褐		口縁部はほぼ直立する。口縁と平行に隆線が走り、その途中より2本1組の隆線が垂下する。	
第1号住居址 第16図-3	深鉢 縄文	口径 残高 12.3 底径 口縁部	胎: 石英、雲母、礫を含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR6/6橙 (A) 7.5YR6/6橙		口縁部に無文帯をもつ。胴部は隆線によって区画し、荒い縄文が施されている。口縁部は内湾する。	
第1号住居址 第16図-4	深鉢 縄文	口径 残高 7.2 底径 口縁部	胎: 雲母、礫を含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR6/4にぶい橙 (A) 7.5YR7/3にぶい褐		口縁部はほぼ直立する。口縁と平行に隆線が存在し、その直下には爪形文が施されている。	
第1号住居址 第16図-5	深鉢 縄文	口径 残高 7.0 底径 口縁部	胎: 雲母、礫を含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR6/4にぶい橙 (A) 7.5YR4/6褐		口縁部はわずかに内湾する。口縁部文様帯の沈線の内側には縄文が施されている。	
第1号住居址 第16図-6	土偶 縄文	縦 横 3.8 厚さ 2.8 頭部	胎: 雲母、礫を含む 焼: 良好 色: (A) 10YR7/3 ~ 4/2 にぶい黄橙 ~ 灰黄褐 (A) 10YR6/4 にぶい黄橙		頭部のみである。目及び口は凹で表現されている。顔面には沈線に因るイレズミ状の文様が施されている。	
第2号住居址 第17図-1	深鉢 縄文	口径(36.0) 器高 41.4 底径 11.4 口縁部1/2	胎: 雲母、礫を含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR6/8橙 7.5YR5/4にぶい褐 (A) 7.5YR5/4にぶい褐		平底から胴部は外傾して開き口縁は内湾する。口縁に1条の沈線、胴部上位と下位に各1条の波状の沈線入る。	住居南張り出し部に倒置して出土。
第2号住居址 第17図-2	深鉢 縄文	口径 残高 14.3 底径 9.4 底部~胴部	胎: 石英、粗砂粒、礫を含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR5/4にぶい褐 (A) 7.5YR5/6明褐		平底より立上がり、内湾気味に開く口縁に移行する。底部に濃線の凹、2本1組の沈線が垂下する。	住居北側隅に埋設。
第2号住居址 第18図-3	深鉢 縄文	口径 残高 25.3 底径 口縁部~胴部	胎: 粗砂粒、バミス状の小粒を含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR6/3にぶい褐 (A) 7.5YR5/1灰褐		胴部上位で最大径をとり、窄まる口縁に至る。波状口縁の波頂部は把手状を呈す。大きな渦巻状の隆線が施される。	がより出土。
第2号住居址 第18図-4	深鉢 縄文	口径(36.6) 器高 13.8 底径 口縁部1/4	胎: 雲母、礫を含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR7/4にぶい橙 (A) 7.5YR7/3にぶい褐		口縁部内傾する。口縁部は隆線によって区画されて短文帯を呈し、そこから2本1組の隆線が垂下し沈線で充填する。	がより出土。
第3号住居址 第19図-1	深鉢 縄文	口径 残高 23.4 底径 6.1 胴部~底部	胎: 小石を含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR6/6橙 ~ 7.5YR5/3 にぶい褐 (A) 10YR7/3 にぶい黄橙		平底より立上がり胴部上位で丸みをもって開く。4単位の隆線による渦巻きの文様構成で沈線によって埋められる。	住居南西隅に埋設。
第3号住居址 第19図-2	深鉢 縄文	口径 残高 6.7 底径 口縁部1/4	胎: 雲母、小石を含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR6/6 橙 (A) 7.5YR3/4 暗褐		口縁部にて内湾し、口唇部内側に段を有す。地文は縄文で隆線にはキザミ目が施される。	がより出土。

第5表 出土遺物一覧表(1)

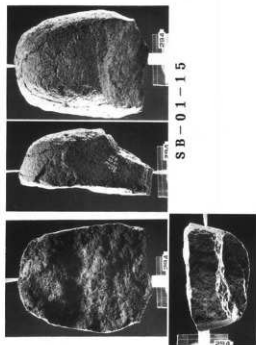
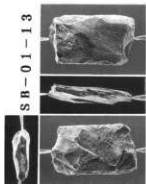
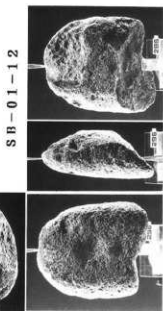
遺構NO 図版NO	器種 種類	法 景	器 質	文様・形態ほか	備 考
第3号住居址 第19図-3	深鉢 縄文	口径 残高 13.8 底径 11.2 底部～胴部	胎：石英、粗砂粒、礫を含む 焼：良好 色：(A) 5YR5/6明赤褐 (B) 5YR5/4赤褐	平底より立上がり、直線的に開きながら胴部に移行する。	住居北側に埋設。
第4号住居址 第20図-1	深鉢 縄文	口径(37.0) 残高 22.1 底径 口径～胴部	胎：白砂粒、粗砂粒、礫を含む 焼：良好 色：(A) 7.5YR4/4褐 (B) 7.5YR4/4褐	口縁部で緩く「く」の字状に屈曲して卒まる。	
第6号住居址 第21図-1	耳栓 縄文	径 4.8 厚さ 2.5	胎：雲母、礫を含む 焼：良好 色：7.5YR4/1灰褐	断面は耳状を呈する。模様は沈線を使って立体的である。	
第6号住居址 第21図-2	深鉢 縄文	口径 残高 8.6 底径 口径部	胎：雲母、粗砂粒を含む 焼：良好 色：(A) 7.5YR6/4にぶい橙 (B) 7.5YR4/3褐	口縁部は隆線によって区画された文様帯を構成し、内側は沈線で埋められている。褐色きの把手状の突起がつく。	がより出土。
第6号住居址 第21図-3	土鍋 縄文	縦 (6.8) 横 (5.4) 厚さ 2.0 胴部	胎：雲母、粗砂粒を含む 焼：良好 色：(A) 7.5YR6/4にぶい橙 (B) 7.5YR6/4にぶい橙	胴部に2つの乳房を持ち、腹部には沈線及び隆線による模様を持つ。	がより出土。
第8号住居址 第22図-1	両耳土器 (B) 縄文	口径 残高 25.6 底径 8.8 胴部～底部	胎：石英、粗砂粒、礫を含む 焼：良好 色：(A) 10YR7/4 にぶい橙 (B) 10YR7/4 にぶい橙	平底で大きく開いて立上がり胴部中位で内湾して卒まる。1対の耳状の把手が付く。沈線で区画され、地文は縄文。	
第8号住居址 第22図-2	両耳土器 (B) 縄文	口径 残高 27.0 底径 8.0 胴部	胎：礫、粗砂粒多量に含む 焼：良好 色：(A) 7.5YR6/6橙 (B) 7.5YR6/6橙	平底より立上がり、胴部上位で肩が張り、頸部で卒まる。両耳状の把手が付く。沈線による逆U状の区画が施される。	埋設土器。
第7号埋壘址 第23図-1	深鉢 縄文	口径 残高 7.5 底径 11.0 底部～胴部	胎：石英、粗砂粒、バミス粒を含む 焼：良好 色：(A) 7.5YR5/6明褐 (B) 7.5YR5/6明褐	上げ底の底部より立上がり、直線的に開きながら胴部に移行する。内側に煤状の付着物がある。	埋設土器。
第10号埋壘址 第23図-2	小型深鉢 縄文	口径 残高 16.1 底径 4.3 胴部～底部	胎：石英、粗砂粒、白色砂粒を含む 焼：良好 色：(A) 10YR4/4 褐 (B) 10YR5/4 にぶい黄褐	底部より外反ぎみに立上がり胴部中位で内湾する。沈線によって区画され、その間に縄文が施されている。	埋設土器。
第11号埋壘址 第23図-3	深鉢 縄文	口径 残高 11.4 底径 5.3 胴部～底部	胎：雲母、礫を含む 焼：良好 色：(A) 7.5YR6/6橙 (B) 7.5YR5/4にぶい褐	平底より立上がり、胴部上位で肩がはり、頸部で括れる。隆線によって渦巻状の文様が表わされている。地文は沈線	埋設土器。
第8号埋壘址 第23図-4	深鉢 縄文	口径 残高 5.8 底径 9.4 胴部～底部	胎：粗砂粒、礫を含む 焼：良好 色：(A) 7.5YR5/6明褐 (B) 7.5YR6/8橙	平底より立上がり直線的に開く胴部に移行する。2本1組の隆線が底部に降りている。	埋設土器。

第6表 出土遺物一覧表(2)

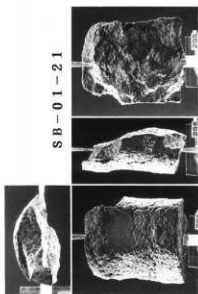
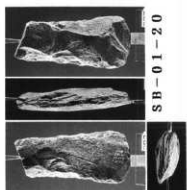
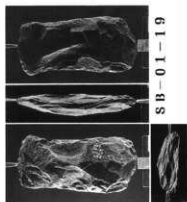
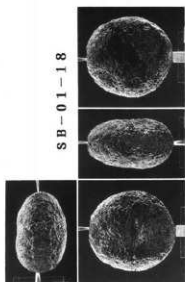
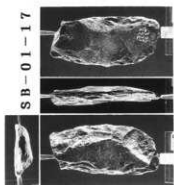
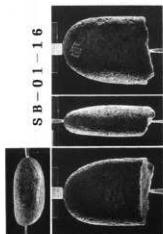
4 石器



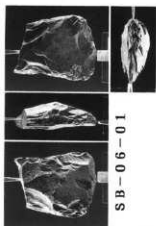
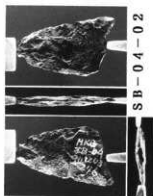
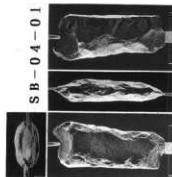
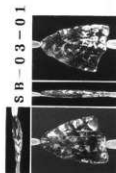
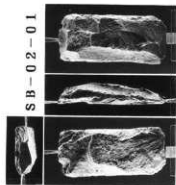
SB-01 (1~10) 出土石器

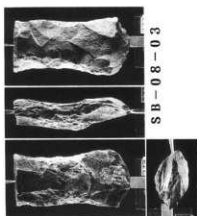
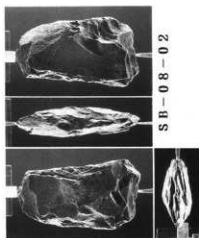
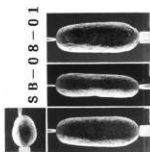
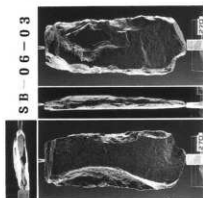
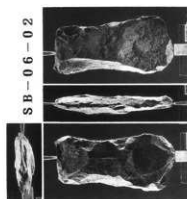


SB-01 (11~15) 出土石器

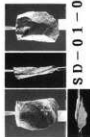


SB-01 (16~21) 出土石器

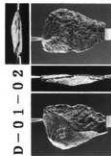




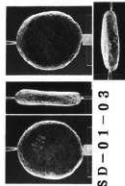
SB-06 (2~3)、08出土石器



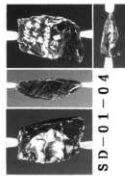
SD-01-01



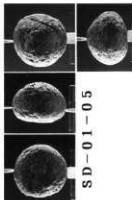
SD-01-02



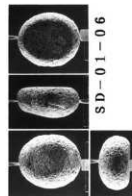
SD-01-03



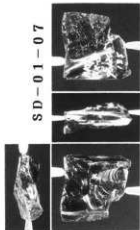
SD-01-04



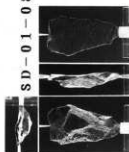
SD-01-05



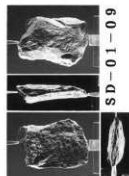
SD-01-06



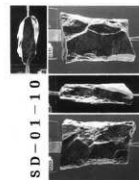
SD-01-07



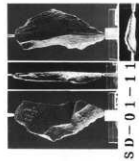
SD-01-08



SD-01-09

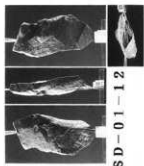


SD-01-10

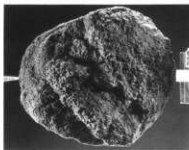


SD-01-11

SD-01 (1~11) 出土石器



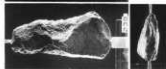
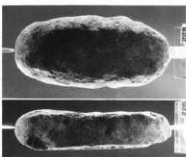
SD-01-12



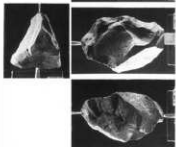
SD-01-13



SD-01-14

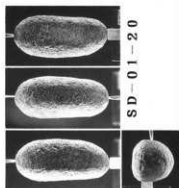
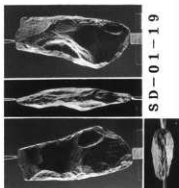
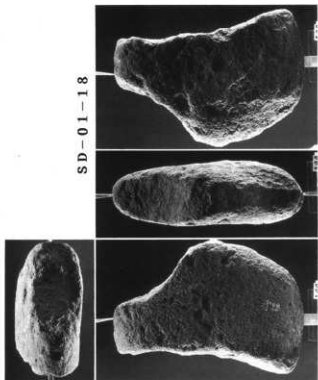
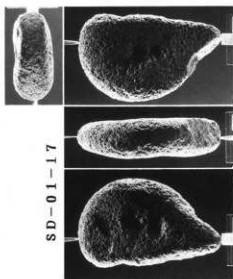


SD-01-15

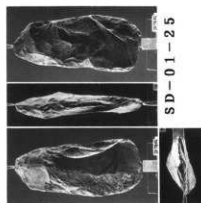
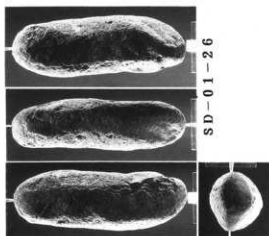
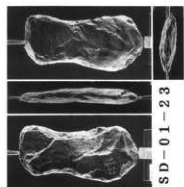
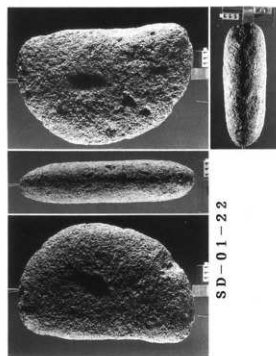


SD-01-16

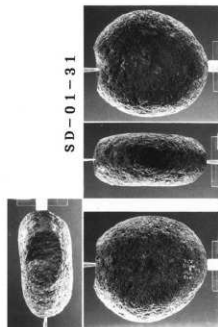
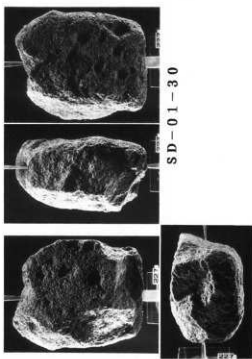
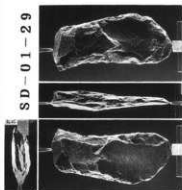
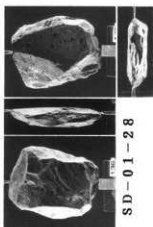
SD-01 (12~16) 出土石器



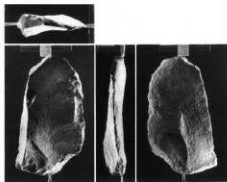
SD-01 (17~21) 出土石器



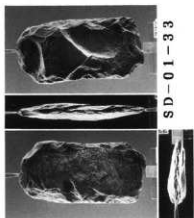
SD-01 (22~26) 出土石器



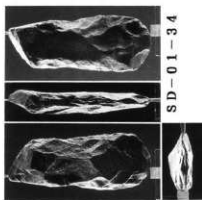
SD-01 (27~31) 出土石器



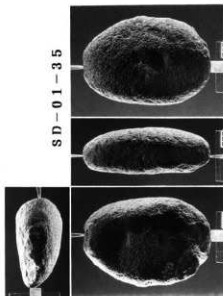
SD-01-32



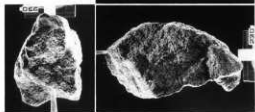
SD-01-33



SD-01-34

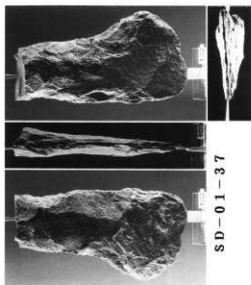


SD-01-35

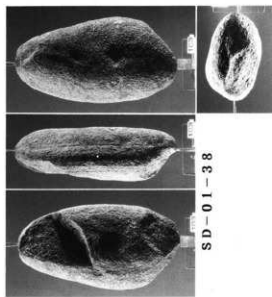


SD-01-36

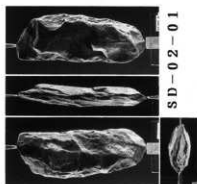
SD-01 (32~36) 出土石器



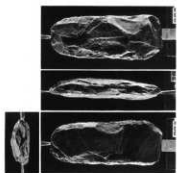
SD-01-37



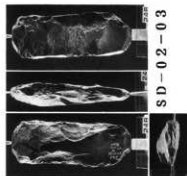
SD-01-38



SD-02-01

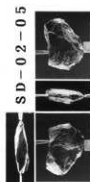


SD-02-03

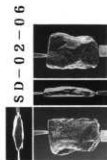


SD-02-04

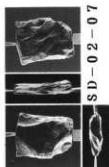
SD-01 (37~38)、02 (1~4) 出土石器



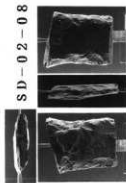
SD-02-05



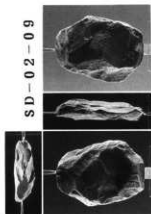
SD-02-06



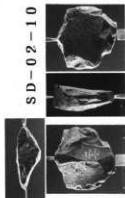
SD-02-07



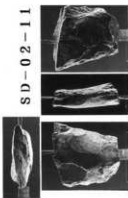
SD-02-08



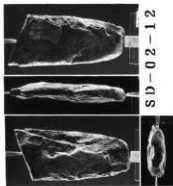
SD-02-09



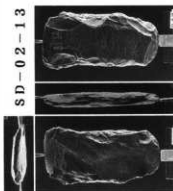
SD-02-10



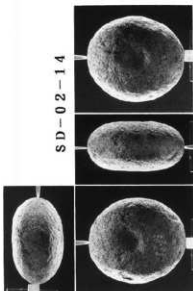
SD-02-11



SD-02-12

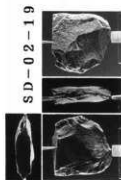
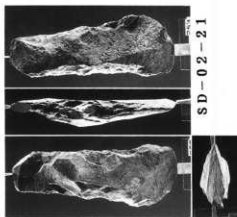
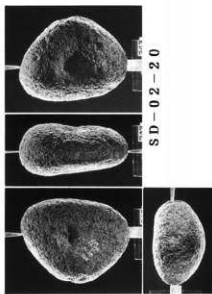
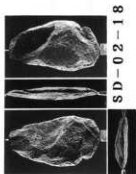
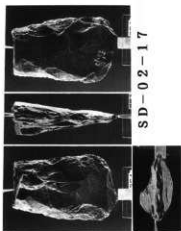
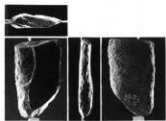
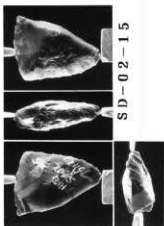


SD-02-13

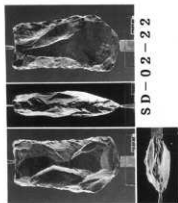


SD-02-14

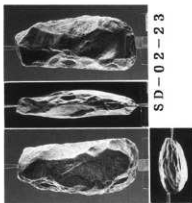
SD-02 (5~14) 出土石器



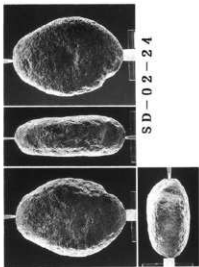
SD-02 (15~21) 出土石器



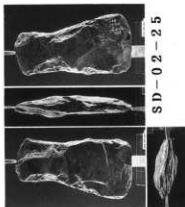
SD-02-22



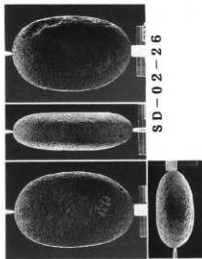
SD-02-23



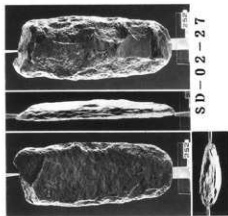
SD-02-24



SD-02-25

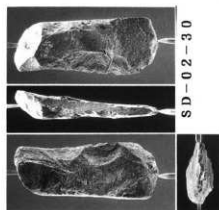
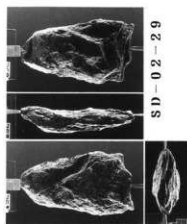
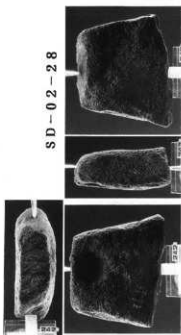


SD-02-26

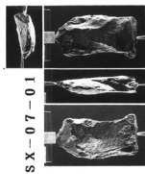
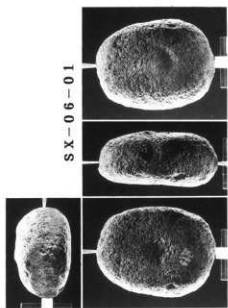
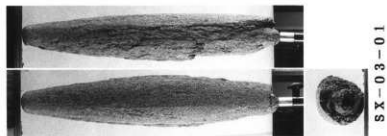


SD-02-27

SD-02 (22~27) 出土石器



SD-02 (28~30) 出土石器



SX-03、06、07出土石器

5 石器一覽表

遺構番号	図版番号	種類	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	石質・備考
SB-01	図版 1-01-01	打製石斧	3.0	5.8	1.2	25	変質頁岩
	図版 1-01-02	"	6.2	4.1	0.9	25	"
	図版 1-01-03	"	5.0	4.3	2.0	55	"
	図版 1-01-04	"	8.3	3.8	1.5	40	"
	図版 1-01-05	"	6.3	4.7	1.4	40	"
	図版 1-01-06	"	7.4	3.6	1.1	30	"
	図版 1-01-07	"	6.0	3.8	1.9	50	"
	図版 1-01-08	横刃	7.7	5.6	1.8	100	"
	図版 1-01-09	打製石斧	8.4	4.1	1.5	55	"
	図版 1-01-10	"	8.9	4.1	1.4	60	"
	図版 2-01-11	"	11.6	4.4	1.7	85	"
	図版 2-01-12	凹石	8.3	8.5	4.2	385	輝石角閃石安山岩
	図版 2-11-13	打製石斧	8.0	5.0	1.9	65	変質頁岩
	図版 2-01-14	凹石	9.8	8.7	4.2	505	輝石角閃石安山岩
	図版 2-01-15	石棒	11.5	9.5	5.6	635	輝石安山岩
	図版 3-01-16	磨石	7.5	6.0	2.8	180	輝石角閃石安山岩
	図版 3-01-17	打製石斧	9.1	4.5	1.6	75	変質頁岩
	図版 3-01-18	凹石	7.0	7.1	4.3	295	安山岩
	図版 3-01-19	打製石斧	10.4	4.9	1.9	95	変質頁岩
	図版 3-01-20	"	9.4	4.6	2.0	110	"
	図版 3-01-21	石棒	8.6	7.5	4.0	325	輝石安山岩
SB-02	図版 4-02-01	打製石斧	9.3	4.2	1.8	105	変質頁岩
	図版 4-02-02	磨石	6.3	5.8	2.1	105	砂岩
SB-03	図版 4-03-01	石鏃	1.7	1.4	0.3	5	黒曜石
SB-04	図版 4-04-01	打製石斧	9.1	4.1	2.0	105	変質頁岩
	図版 4-04-02	石鏃	2.6	1.7	0.3	5	頁岩
SB-06	図版 4-06-01	打製石斧	6.6	5.8	2.4	100	変質頁岩
	図版 5-06-02	"	10.2	5.1	1.8	110	"
	図版 5-06-03	"	12.3	5.2	1.2	105	"
SB-08	図版 5-08-01	磨石	7.2	2.7	2.1	60	砂岩
	図版 5-08-02	打製石斧	10.5	6.1	2.6	193	変質頁岩
	図版 5-08-03	"	10.1	5.1	2.5	165	"

第7表 SB-01、02、03、04、06、08出土石器一覽表

遺構番号	図版番号	種類	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	石質・備考
SD-01	図版 6-01-01	フレーク	3.7	2.6	1.0	13	変質頁岩
	図版 6-01-02	"	5.5	3.9	0.9	21	" (村雨石)
	図版 6-01-03	磨石	5.8	5.2	1.4	60	輝石角閃石安山岩
	図版 6-01-04	フレーク	1.9	1.3	0.6	5	黒曜石
	図版 6-01-05	磨石	4.6	4.7	3.6	110	輝石角閃石安山岩
	図版 6-01-06	"	5.5	4.8	2.8	100	"
	図版 6-01-07	未成品	2.0	2.0	0.7	30	黒曜石
	図版 6-01-08	フレーク	6.0	3.4	1.2	25	変質頁岩
	図版 6-01-09	打製石斧	6.0	4.4	1.7	48	"
	図版 6-01-10	"	6.0	4.5	1.8	76	"
	図版 6-01-11	フレーク	7.9	3.2	1.1	26	"
	図版 7-01-12	打製石斧	7.0	3.2	1.6	43	"
	図版 7-01-13	"	6.5	8.3	1.5	85	"
	図版 7-01-14	"	8.1	6.4	1.9	56	緑色凝灰岩
	図版 7-01-15	多孔石	13.7	12.4	8.7	1,585	磨質砂岩
	図版 7-01-16	磨石	13.5	6.4	3.6	412	砂岩
	図版 8-01-17	"	8.2	4.0	1.9	53	変質頁岩
	図版 8-01-18	打製石斧	8.8	4.1	1.9	82	"
	図版 8-01-19	石核	7.2	5.0	4.4	140	"
	図版 8-01-20	凹石	12.4	7.8	3.5	395	輝石角閃石安山岩
	図版 8-01-21	多孔石	16.7	10.1	5.6	1,310	"
	図版 9-01-22	打製石斧	10.0	4.5	2.0	95	変質頁岩
	図版 9-01-23	磨石	8.2	3.8	3.7	150	砂岩
	図版 9-01-24	打製石斧	8.6	6.8	1.7	138	変質頁岩
	図版 9-01-25	"	12.7	7.2	6.3	860	輝石角閃石安山岩
	図版 9-01-26	凹石	15.5	10.3	3.8	810	"
	図版 9-01-27	打製石斧	"	"	"	"	"
	図版10-01-28	"	9.7	4.9	2.2	100	変質頁岩
	図版10-01-29	"	11.2	4.8	2.1	123	"
	図版10-01-30	敲石	15.2	5.1	4.4	485	砂岩
	図版10-01-31	打製石斧	13.7	5.4	2.1	188	変質頁岩(黒曜石)
	図版10-01-32	"	16.1	5.3	3.4	308	安山岩
	図版11-01-33	"	7.8	6.0	1.7	120	変質頁岩(黒曜石)
	図版11-01-34	"	3.0	2.4	1.3	10	安山岩
	図版11-01-35	"	10.5	4.5	1.8	88	変質頁岩
	図版11-01-36	多孔石	11.4	9.5	6.6	906	輝石角閃石安山岩
	図版11-01-37	凹石	9.5	9.5	4.8	595	安山岩
	図版12-01-38	横刃	10.4	5.6	1.8	116	変質頁岩
	図版12-01-39	打製石斧	11.0	5.4	1.5	120	"

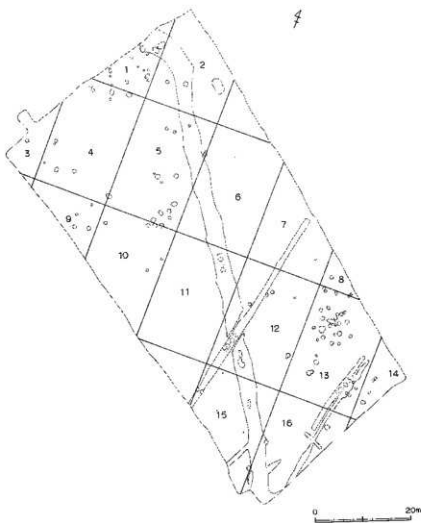
第8表 SD-01出土石器一覧表

遺構番号	図版番号	種類	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	石質・備考
SD-01	図版12-01-40	打製石斧	12.3	4.9	2.0	150	〃
	図版12-01-41	凹石	11.1	7.8	4.2	445	輝石角閃石安山岩
	図版12-01-42	多孔石	11.6	6.5	5.8	460	〃
	図版13-01-43	打製石斧	14.9	8.1	2.6	265	変質頁岩
	図版13-01-44	凹石	14.1	7.5	4.7	580	〃
SD-02	図版13-02-01	打製石斧	11.3	4.2	1.8	105	変質頁岩
	図版13-02-02	〃	9.6	3.9	1.7	80	〃
	図版13-02-03	〃	10.4	3.9	2.1	90	〃
	図版13-02-04	石器	6.1	4.0	1.1	23	頁岩
	図版14-02-05	打製石斧	3.0	4.5	1.2	21	変質頁岩
	図版14-02-06	〃	4.5	3.2	0.9	15	〃
	図版14-02-07	〃	4.9	3.7	1.2	20	〃
	図版14-02-08	〃	5.5	4.9	1.3	40	〃
	図版14-02-09	〃	7.7	5.5	1.8	100	〃
	図版14-02-10	〃	5.2	5.5	2.0	65	〃
	図版14-02-11	〃	5.4	5.5	1.8	85	〃
	図版14-02-12	〃	9.4	4.4	1.7	90	〃
	図版14-02-13	〃	10.2	4.9	1.3	95	〃
	図版14-02-14	凹石	8.5	7.6	4.4	350	輝石角閃石安山岩
	図版15-02-15	(スクリュー)	2.5	1.8	0.9	6	チャート
	図版15-02-16	打製石斧	6.7	4.1	1.3	45	変質頁岩
	図版15-02-17	〃	8.9	5.8	2.9	140	頁岩
	図版15-02-18	〃	8.0	4.4	1.2	100	変質頁岩
	図版15-02-19	〃	4.8	5.2	1.4	55	〃
	図版15-02-20	凹石	9.3	7.4	4.5	383	安山岩
	図版15-02-21	打製石斧	14.4	5.4	2.3	178	変質頁岩
	図版16-02-22	〃	9.1	4.9	2.2	115	〃
	図版16-02-23	〃	10.3	4.8	2.5	165	〃
	図版16-02-24	凹石・礫石	9.6	7.0	3.6	318	砂岩
	図版16-02-25	打製石斧	10.1	5.3	1.9	20	変質頁岩
	図版16-02-26	磨石	10.5	6.7	3.4	368	輝石角閃石安山岩
	図版16-02-27	打製石斧	13.4	5.6	1.8	195	変質頁岩
	図版17-02-28	凹石	7.9	9.8	3.5	410	砂岩
	図版17-02-29	打製石斧	9.6	5.7	2.1	145	変質頁岩
	図版17-02-30	〃	12.6	5.1	2.6	155	〃 (村雨石)
SX-03	図版17-03-01	石棒	67.9	15.3		6,700	緑色凝灰岩
SX-06	図版17-06-01	凹石	7.0	3.5	1.5	55	輝石角閃石安山岩
	図版17-06-02	打製石斧	10.2	8.0	4.6	520	変質頁岩

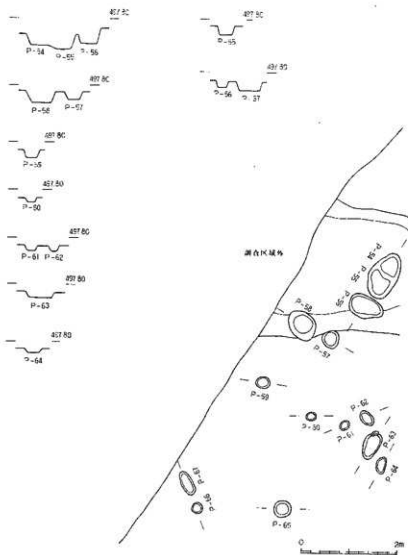
第9表 SD-02、SX-03、06、07出土石器一覽表

第四章 田中遺跡の調査

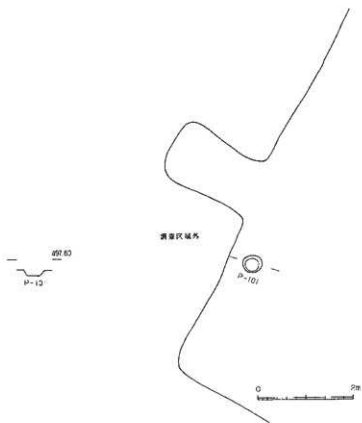
第1節 遺構



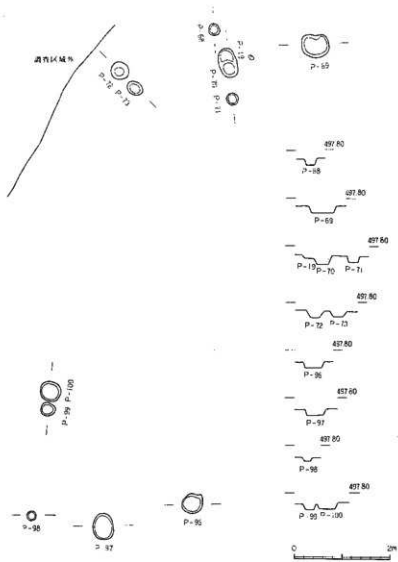
第24図 田中遺跡全体図



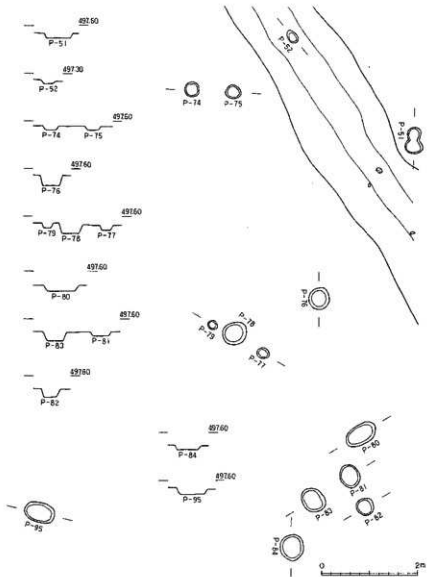
第25图 透構実測图(1)



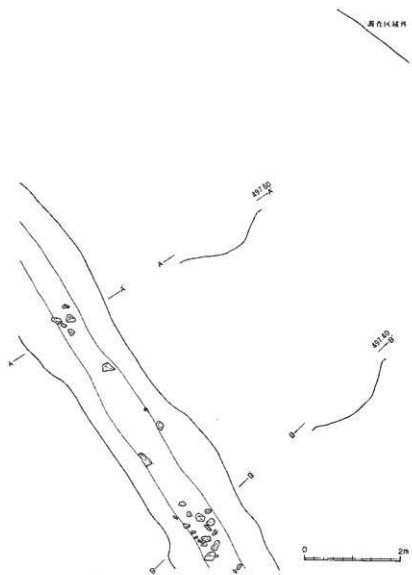
第 27 图 遺構実測図 (3)



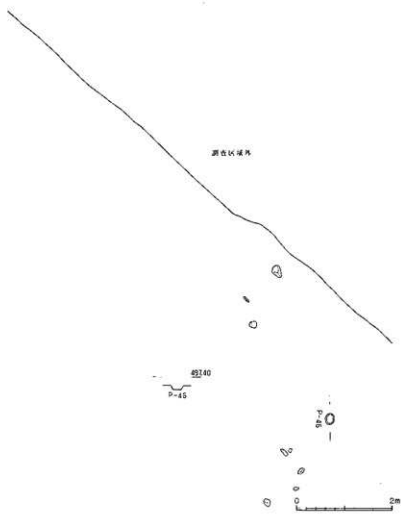
第 28 圖 遺構実測圖 (4)



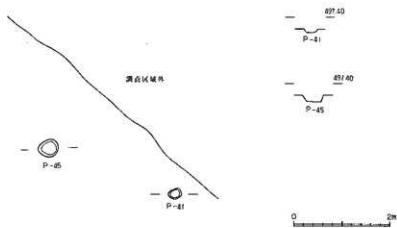
第 29 图 遺構実測図 (5)



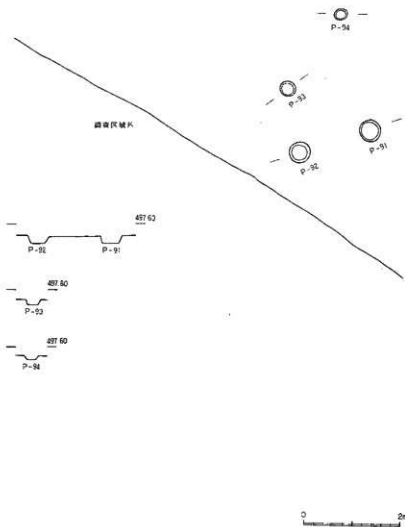
第30图 遺構実測図(6)



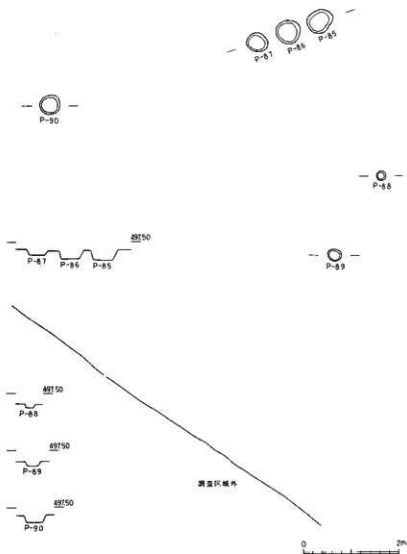
第31图 结构实测图(7)



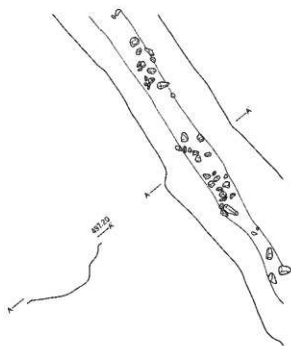
第 3 2 图 造桥实测图 (8)



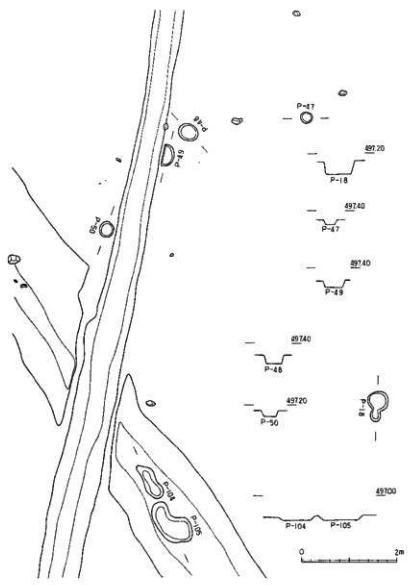
第33图 遺構実測图(9)



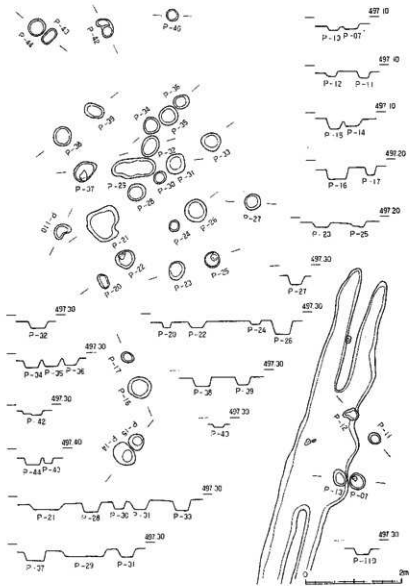
第34図 遺構実測図(10)



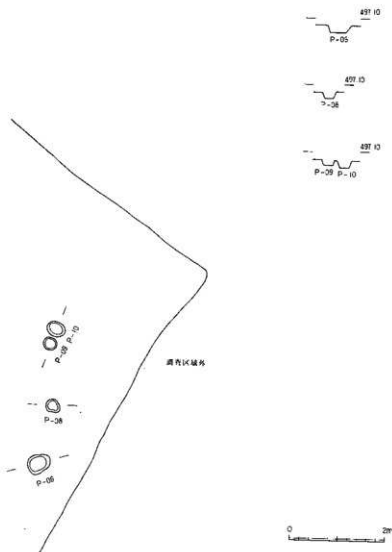
第35圖 遺構実測圖(11)



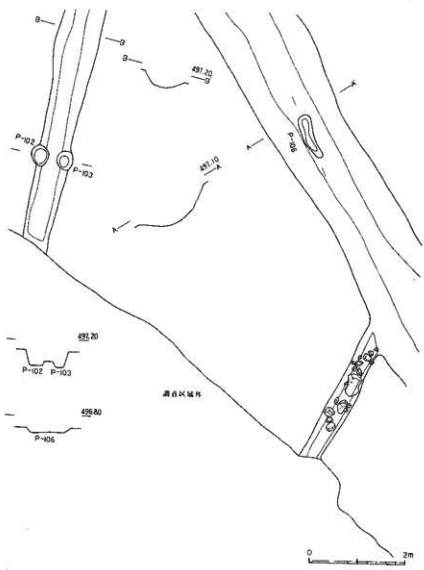
第 36 图 遺構実測図 (12)



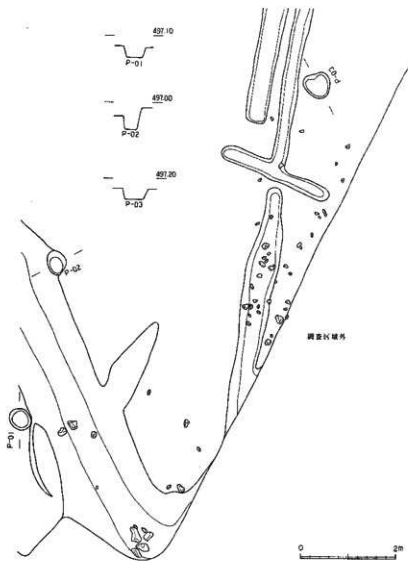
第 37 图 遺構実測図 (13)



第38图 造构夹湖园(14)



第39图 遺構実測图(15)

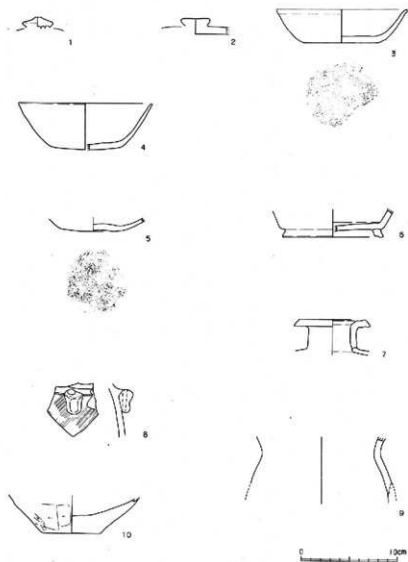


第40图 结构实测图(16)

番 号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番 号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番 号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
1	50	42	24	45	44	38	15	87	45	40	12
2	54	39	46	46	25	18	11	88	21	20	8
3	58	55	24	47	26	24	11	89	30	25	10
6	50	34	16	48	42	36	18	90	44	40	15
7	34	32	10	49	46	24	16	91	46	44	16
8	33	26	13	50	34	30	13	92	44	44	18
9	30	28	12	51	56	23	10	93	36	32	12
10	40	32	17	52	32	20	8	94	29	24	8
11	28	24	12	53	47	46	22	95	66	42	14
12	34	24	11	54	50	48	24	96	48	41	12
13	38	28	9	55	60	50	39	97	56	43	13
14	52	40	10	56	94	64	32	98	21	20	9
15	34	33	22	57	38	32	16	99	30	28	12
16	50	46	21	58	89	72	25	100	46	42	15
17	28	22	19	59	30	25	16	101	42	37	11
18	64	16	26	60	22	18	9	102	46	36	33
19	38	34	8	61	24	19	12	103	42	34	34
20	32	19	12	62	37	23	12	104	83	26	10
21	80	60	13	63	59	34	12	105	106	42	12
22	42	38	13	64	38	20	9	106	97	22	11
23	40	32	12	65	26	24	19	108	170	104	13
24	16	12	9	66	24	24	15	109	39	35	25
25	34	32	12	67	54	35	18				
26	48	46	28	68	26	25	13				
27	36	34	17	69	60	49	15				
28	40	36	20	70	54	54	20				
29	94	40	15	71	26	24	12				
30	30	24	16	72	38	36	17				
31	46	42	17	73	36	26	12				
32	48	36	16	74	32	32	10				
33	42	38	24	75	34	30	9				
34	37	36	15	76	46	44	22				
35	42	38	16	77	28	23	10				
36	36	29	16	78	54	48	22				
37	52	36	21	79	22	20	11				
38	41	38	19	80	70	42	12				
39	42	18	18	81	52	42	9				
40	26	24	6	82	38	34	19				
41	30	23	7	83	54	44	20				
42	43	24	9	84	56	48	10				
43	38	21	16	85	54	47	23				
44	38	37	14	86	52	50	18				

第10表 ビット一覧表

第 2 節 遺 物

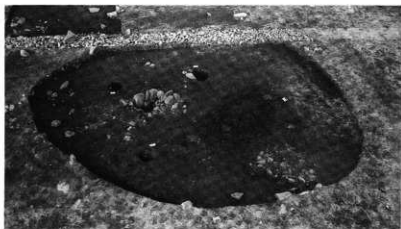


第 4 1 图 出土遺物実測図

遺構No 図版No	器種 種類	法量 残存	器 質	成 形 ・ 形 態	整 形 技 法 ほ か
SD-01 - 1	蓋 須恵 灰 磁	3.2 1.1	胎：雲母、粗砂粒を含む 焼：良好 色：(K) N7灰色 (A) N7灰色	抓部は宝珠形を呈する	(K) 轆轤による撫で
P-23 - 2	蓋 須恵 灰 磁	2.7 1.6	胎：0.2-0.4 の礫を含む 焼：良好 色：(K) N6灰色 (A) N6灰色	抓部はボタン状を呈する。	(K) 天井部は轆轤による撫で、 抓部は撫で (A) 轆轤による撫で
SD-02 - 3	坏 須恵 灰 磁	13.8 3.5 7.8 D1/3 底面	胎：0.2 の礫、粗砂粒を含む 焼：良好 色：(K) N5~N7灰色 (A) N5~N7灰色	平底の底部より内湾しながら立ち上がり、口縁部で僅かに外反する火澤あり。	(K) 轆轤による撫で、底部回転 糸切り-左？ (A) 轆轤による撫で
SD-01 - 4	坏 須恵 灰 磁	12.0 4.9 7.0 D1/4 底面	胎：粗砂粒を含む。 焼：良好 色：(K) N8灰白色 (A) N8灰白色	平底の底部より外傾して口縁に至り、ごく僅かに外反する。	(K) 体部轆轤による撫で、底部 静止型切り (A) 轆轤による撫で
SD-01 - 5	坏 須恵 灰 磁	- 1.4 7.0 底面	胎：0.3 の礫、粗砂粒を含む 焼：良好 色：(K) N7、N5灰色 (A) N7灰色	やや上げ底の底部。	(K) 体部轆轤による撫で、底部 回転糸切り-右 (A) 轆轤による撫で
SD-02 - 6	坏 須恵 灰 磁	- 2.9 10.6 底面 L/4	胎：精良 焼：良好 色：(K) N5灰色 (A) N5灰色	付高台。	(K) 轆轤による撫で、静止型切 り (A) 轆轤による撫で
SD-01 - 7	(須恵) 蓋 須恵 灰 磁	7.9 3.7	胎：0.2 の礫、細砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(K) N7灰白色~N5灰色 (A) N7灰白色~N5灰色		(K) 轆轤による撫で、自然釉が かかる (A) 轆轤による撫で
P-31 - 8	壺 須恵 灰 磁	- 5.5	胎：0.2 の礫、粗砂粒を含む 焼：良好 色：(K) N6灰色 (A) N7灰色	肩部に耳をつけ耳孔は貫通、体部中位に△帯を有す。	(K) 工具による叩き (A) 横撫で
SD-01 - 9	壺 土師 灰 磁	- 6.9	胎：0.2-0.3 の礫、粗砂粒を含む 焼：良好 色：(K) 7.5YR6/4にぶい橙褐色 (A) 7.5YR6/3にぶい褐色		(K) 撫での後部削り、肩部削り、 胴部撫で (A) 横撫で
SD-01 - 10	壺 土師 灰 磁	- 4.0 5.8	胎：0.2-0.5 の礫、粗砂粒を含む 焼：良好 色：(K) 5YR5/6明赤褐色 (A) 7.5YR6/3にぶい褐色	平底の底部より外反気味に立ち上がる。	(K) 箔削りの後撫で (A) ごく僅かに削削りの痕跡がある。

第 11 表 出土遺物一覧表

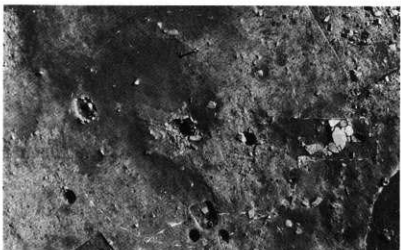
写真図版



SB-01 (S)



SB-01 跡
(SW)



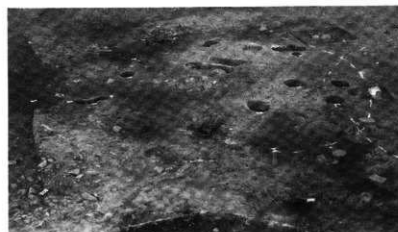
SB-02 (真上)



SB-02 竈 (S)



SB-02 竈 (S)



SB-03 (S)



SB-03 炉 (S)



SB-04 (S)



SB-04 炉 (S)



SB-06 (S)



SB-06 甲 (S)



SB-08 (E)



SB-08
張山部 (E)



FP-02 (S)



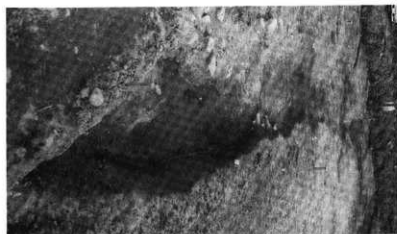
SK-02 (S)



SD-01、02
(NW) 検出状況



SD-01 (NW)



SD-02 (NW)



SX-03 (SE)



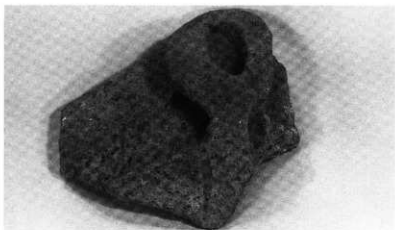
SX-03 (NE)
立石



作業員の皆さん



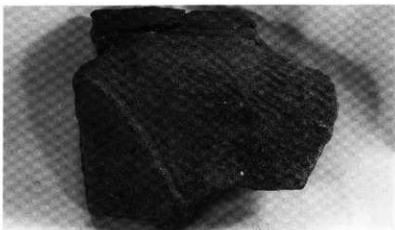
田中遺跡全景



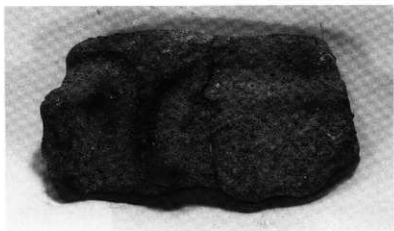
SB-01-1



SB-01-2



SB-01-3



SB-01-5



SB-01-6



SB-02-1



SB-02-2



SB-02-4



SB-03-1



SB-03-1



SB-03-2



SB-03-3



SB-04-1



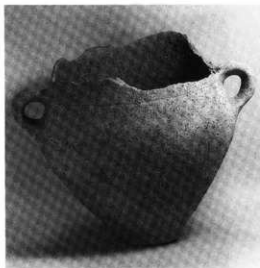
SB-06-2



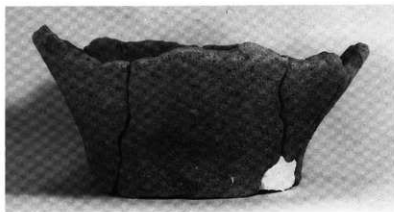
SB-06-3



SB-06-3



SB-08-2



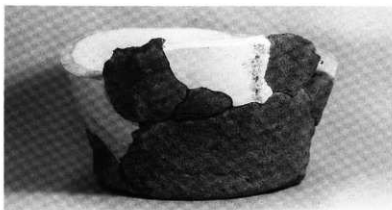
PO-1



PO-2



PO-3



PO-4